

自閉症指導

スタンダード



平成29年度
佐世保特別支援学校

～はじめに～

「自閉症指導スタンダード」は、本校において自閉症児に関わるときに必要な共通のスタンス（学校としての自閉症児指導の指標）を示したものです。一人一人の児童生徒が違いうように、自閉症スペクトラム障害の特性も一人一人違います。一方で、表面に表れる行動は違っていても、その根底にある自閉症特有の性質は共通していることも、近年の自閉症研究の中で分かっています。

ここに挙げている10項目のスタンダードは、先生方のアンケートを基にしながら、プロジェクトチームで優先順位をつけて、平成29年度版として決めたものです。自閉症児の指導においては、必ず押さえておかなければならないことであり、常にこの10項目を念頭に置きながら、普段の指導・支援に当たります。

スタンダードの項目については、10項目のそれぞれに「特性理解」、「特性から考えられる対応」、「指導例」を挙げています。自閉症児の指導に初めて携わる先生方にも分かりやすいように表現の仕方や見やすさを工夫し、コンパクトな内容にしました。「特性から考えられる対応」については、児童生徒によっては違う要因や背景から別の対応が望ましい場合もあります。よって、ここに記した内容だけでは、担当の自閉症児のことを理解できない場合もあることを承知おきください。また、「指導例」は、あくまでも指導方法の例です。専門書を読んだり、研修会に参加したり、教員同士で意見交換をしたりなど、自閉症児の指導の知見を深めていただければと思います。

この佐世保特別支援学校版「自閉症指導スタンダード」が、少しでも先生方の役に立ち、自閉症児の指導・支援が充実していくことを願っています。

平成29年8月24日

自閉症指導スタンダードプロジェクトチーム一同

平成29年8月24日

長崎県立佐世保特別支援学校長 西岡 哲男

目次

はじめに

◇ 「自閉症指導スタンダード」項目	3
◇ 説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう	4
◇ コミュニケーションスキルを高めさせよう	5
◇ 予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう	6
◇ 「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう	7
◇ 独特の感覚があることを理解しよう	8
◇ 教室の掲示などをシンプルにしよう	9
◇ 様々な場面で使えるスキルを育てよう	10
◇ 「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサインとしてとらえよう	11
◇ 気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう	12
◇ その行動が適切であったかを振り返えらせよう	13
◇ 「視覚的情報、何にする？」	14
◇ 自閉症児の行動理解について	15
◇ 自閉症児に対する指導方法等について	16
◇ 参考文献	18

「自閉症指導スタンダード」項目

- 1 説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう
- 2 コミュニケーションスキルを高めさせよう
- 3 予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう
- 4 「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」
「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう
- 5 独特の感覚があることを理解しよう
- 6 教室の掲示などをシンプルにしよう
- 7 様々な場面で使えるスキルを育てよう
- 8 「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサインとしてとらえよう
- 9 気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう
- 10 その行動が適切であったか振り返らせよう

1 説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう

なぜ？



(特性理解)

- ・同時に二つ以上の事柄を意識することが難しい。
- ・説明や指示の中から、大切なポイントを抽出することが難しい。
- ・「ちゃんと」「しっかり」等のような、抽象的な言葉の理解が難しい。

だから…

- 指示の内容は、一文に一つ（一文一動詞）にする。
- 指示は短く、余計な情報はできるだけ省く。
- 具体的な言葉を使って伝える。

指導例

一文一動詞で伝えよう

「〇〇をしたら、次に△△をします」というように、一文二動詞にすると、どこを聞いていいか分からなくなることがあるので、指示の仕方は、「まず〇〇をします」と言いましょう。その活動が終わったら「△△をします」と言うことで、何を指示されているかが明確になります。

指示は簡潔に！余計な情報を省こう！

「脱いだ服は脱ぎっぱなしにしないで、畳んで籠に片付けてね」の文で、余計な情報とはどこでしょう。状況により変わりますが、「脱いだ服は脱ぎっぱなしにしないで」の部分がなくても相手にしてほしいことは伝わります。一番伝えたいことを端的に伝えることが大切です。更に服を指しながら「畳みます」、畳み終わったことを確認して「籠に入れます」と言うと効果的です。

具体的に伝えよう

「ちゃんと（きちんと）しなさい」の「ちゃんと（きちんと）」は、状況によって意味が変わります。このように意味が不安定な言葉を、状況判断して意味を理解することはとても難しいことです。「ちゃんと（きちんと）肘を伸ばしなさい」ではなく、「肘から指先までをまっすぐに伸ばしなさい」など、具体的に伝えましょう。言葉による指示が難しい児童生徒には、してほしい状態を視覚的に指示（実際にモデルを示す、肘をまっすぐに伸ばした写真や絵を使用する）することが大切です。

(留意点)

- ・話すスピードや抑揚、リズムで伝わり方は変わります。児童生徒の情報の受け取り方の特性に応じて、話し方や内容を変えましょう。

2 コミュニケーションスキルを高めさせよう

なぜ？



(特性理解)

- ・言語に関する発達に遅れや偏りがあり、話し言葉の表出が難しい。
- ・言葉が話せても意味を正確に分かっておらず、場面にあった言葉を選ぶことが難しい。
- ・相手の表情や行間を読み取ることが難しい。
- ・思いを伝える方法が分からず、パニックになることも多い。



だから…

- 自発的なコミュニケーションのスキルを身に付けさせる。
- 必要な場面で、適切な言葉を使う練習を積み重ねる。
- 「要求」「拒否」「援助要請」ができる力を身に付けさせる。

指導例

児童生徒が、自分の気持ちを伝えられる方法を取り入れる

コミュニケーション手段として、言葉や写真、絵、具体物、シンボルによるものがあります。その中で、言葉の表出が未発達な児童生徒のコミュニケーションには、写真、絵、具体物、シンボルを使います。これらを、ボードに貼ったり、特定の場所に置いておいたりして、児童生徒がすぐに手に取りやすいようにします。初めは教師が手を取って、状況に応じたコミュニケーションツールの出し方を練習します。徐々に教師の支援を減らし、自分でコミュニケーションツールを選んで出すよう促していきます。初めのうちは、児童生徒がツールを出したら即時的に対応することで、自分の思いが伝わる楽しさを感じさせることが大切です。

場に応じたコミュニケーション

適切な言葉を選ぶことに難しさがある児童生徒には、「この場面ではこのように言う」というルールを作って練習させることで、自信をもってコミュニケーションができるようになる場合があります。何と云えばよいのか分からないから、緊張したり萎縮したりして、更に適切なコミュニケーションが取れなくなることもあります。不適切な言葉を使う場合も同様で、適切な言葉を、場面に応じて一つ一つ教えていくようにしましょう。

ソーシャルスキルトレーニング (SST)

相手の表情や文章の行間を読み取ることが難しいため、周りの人とトラブルになることがあります。その際、正しいコミュニケーションを学習させることが大切になりますが、その方法の一つにSSTがあります。SSTには、机上で行うコミック会話や、実際に体を動かしながら学ぶロールプレイングなどがあります。

(留意点)

- ・言葉の意味を理解せずに使っている児童生徒の中には、周りが笑ったりびっくりしたりする様子を楽しむ児童生徒もいます。コミュニケーションの誤学習を積み上げるにならないよう、場合によっては計画的無視をする必要があるので注意しましょう。

3 予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう

なぜ？



(特性理解)

- ・想像力が弱いことから、今後の予測や状態の変化をイメージすることが難しい。
- ・思っていたことが変わってしまうことへの不安感が強い。



だから…

- 何の活動が、どう変わるのかを明確に示す。
- 変更が分かったらすぐに知らせ、変更を受け入れる時間を作る。
- 児童生徒が理解できる、納得しやすい方法で伝える。

指導例

「〇〇」→「△△」に変わります

何の活動がなくなって、何の活動が増えるのか、明確に示しましょう。例えば、スケジュールを見せながら、前の活動の写真を外し、変更後の活動の写真を貼って変更を伝えてもいいですし、前の活動の写真を残して×を付け、変更後の活動の写真に○を付けてもいいでしょう。大切なのは、児童生徒がどのような知らせ方をすれば一番理解しやすいのかを、教師が理解することです。

変更は・・・すぐに知らせる？直前に知らせる？

変更を受け入れることが難しい児童生徒には、予定の変更が分かり次第、すぐに知らせて、状況を受け入れるための時間を確保しましょう。変更を受け入れられないまま新たな活動に取り組ませようとしても、スムーズに参加することができない場合があります。児童生徒の実態によって変わることもあります。基本として、変更は早めに知らせた方がよいでしょう。

伝えつつも・・・にならないために

教師は伝えつつも、児童生徒が理解していないと伝わったとは言えません。児童生徒が活動の変更を理解できるかどうかは、教師の日頃の実態把握がとても大切です。文字で示すのか、写真で示すのか、スケジュール上でカードを操作して変更を示すのか、カードは残しておくのか、取ってしまうのか、その他に必要な情報は何か。児童生徒に一番合う方法は、周りの先生たちからの情報も聞きながらつけてください。

(留意点)

- ・普段は言葉でのやりとりができていた児童生徒でも、視覚的な情報処理を得意としているのであれば、視覚的に変更を伝えた方がよいでしょう。苦手なこと(予定変更)と苦手なこと(聴覚的な情報処理)を同時に示されると苦しいですね。

4 「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう

なぜ？



(特性理解)

- ・不確かなことは苦手で、決まっていることや分かりやすいことには安心して取り組むことができる。
- ・色々な情報の中から大切な情報を抽出したり整理したりすることが難しい。
- ・自分で活動の優先順位を考えて行動を組み立てることが苦手。

だから…

- 視覚情報を活用するなどして、できるだけ具体的に順序立てて伝えるようにする。
- 一つ一つの活動の「はじめ」と「おわり」を明確に示すようにする。

指導例

スケジュールボードや手順表などの活用

例えば作品作りの活動では、「①紙を切る」「②画用紙に貼る」「③色を塗る」など一つ一つの作業をカードなどで示し、ボードに貼りながら作業手順や具体的にすることを伝えるようにしましょう。「〇個作ったら終わり」「〇分まで」など終わりを明確にしておくことも大切です。時間などの抽象的な事柄は、必要に応じてタイマーなどを効果的に活用しましょう。一つの作業が終わったことをより明確にするために、「終わったらカードを外す」などルールを決めておくともよいでしょう。

苦手な活動はトークン（ご褒美）を有効活用

指示や活動内容を具体的に示しても児童生徒が活動を嫌がる場合は、活動後に児童生徒の好きな活動を設定するなどして、「終わったら〇〇ができる（もらえる）」という期待感をもたせ児童生徒のやる気を引き出すようにしましょう。取り組めるようになったら、徐々に好きな活動の時間を短くしたり課題の量を増やしたりして、少しずつ「トークン（ご褒美）」がなくても行動できるようにしていきましょう。

(留意点)

- ・活動順や終わりを見通せる力は、児童生徒の理解力や発達段階によって異なります。細かく伝え過ぎて、かえって混乱させることがないように、児童生徒の実態に応じた伝え方や情報量を工夫することが大切です。
- ・ご褒美は、児童生徒の発達段階や生活年齢に応じて工夫しましょう。

5 独特の感覚があることを理解しよう

(特性理解)

- ・特定の感覚（聴覚、触覚、視覚、味覚、嗅覚）を極端に不快に感じ、苦手な感覚から逃れようとしたり、混乱して周囲から見れば好ましくない行動をしてしまったりすることがある（感覚過敏）。



だから…

- 苦手な感覚とその程度を理解し、減らせる刺激は減らして本人が過ごしやすい環境を整える。
- 苦手な感覚への対処の仕方（イヤーマフを使う、サングラスをかけるなど）を考えておき、必要に応じて自分で対処することも教える。

指導例

過敏への対応の基本は刺激を減らす環境調整

「まぶしがるのであればサングラスをかけさせる」、「音に敏感であれば教師の音量を落とす」、「特定の素材の服を嫌がるのであればその素材は避ける」など、過敏への対応の原則は原因となる刺激を取り除く（減らす）ことです。無理に慣れさせることが、本人には苦痛である場合があることを心得ておきましょう。

苦手な活動は事前に知らせて

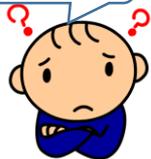
急に苦手な感覚を感じて混乱しないよう、活動の流れを説明する際などに、予め苦手な感覚を感じるかもしれない活動があることを知らせておきましょう。感覚過敏があっても、本人がある程度予測ができることで対処がしやすくなります。

(留意点)

- ・刺激を感じにくい【感覚鈍麻】の特性もあります。この場合、特徴的な刺激の感じ方（痛みに鈍くなる、独特の味の感じ方をするなど）やその感覚を得ようとする行動（激しい自傷行為、高い場所に登るなど）が見られることがあります。この場合も、児童生徒が過ごしやすいように環境を整える（何でも口に入れる場合は危険な物は隠すなど）ことが原則になります。
- ・徐々に苦手な感覚に慣れることや、感じにくい刺激を適度な刺激で受け止められるようになることも大切です。その際、本人が受容できる範囲から段階的に刺激を増やし（減らし）、児童生徒に過度の負担にならないようにしましょう。

6 教室の掲示などをシンプルにしよう

なぜ？



(特性理解)

- ・同時に複数のことを行うのが苦手で、ある1点に注意が向くと他に注意が向きにくくなる（シングルフォーカス）。

だから…

- 注意が逸れると思われる掲示等は行わず、学習に集中できる教室環境にする。
- 必要に応じて仕切りを用いるなどして、周囲の人の動きなどで注意が逸れないようにする。

指導例

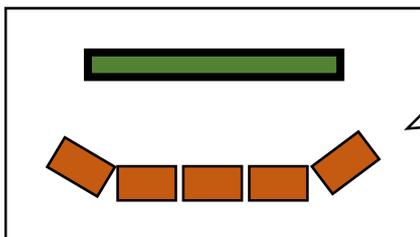
教室環境はシンプル過ぎる位がちょうどいい！

教室に児童生徒には関係ない教師用のメモが貼ってあったり、終わった教材がそのままになったりしていませんか。環境美化のための壁面飾りや生花、児童生徒の作品掲示も注意を逸らす原因になることがあります。“殺風景”に感じるかもしれませんが、その方がより活動に集中しやすくなることを心得ておきましょう。

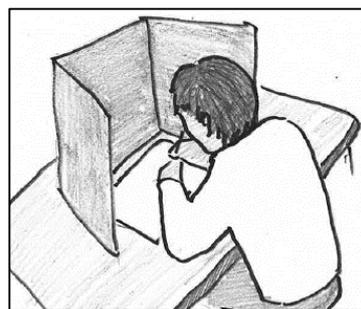
学習で使用することが多い黒板（ホワイトボード）及び教室正面の掲示物や物の配置は、特に注意を払って掲示等を行うようにしましょう。



すっきりとした
黒板周辺。



注目を促す机の
配置の例。



仕切りの活用。

(留意点)

- ・仕切りをしたために外から聞こえる音がかえって気になったり、いつもある物が見えなくなってそのことが気になったりなど、必ずしも見えなくすることがよいとは限らない場合もあります。その際は、確認をさせるなどして安心して活動に取り組めるようにしましょう。

7 様々な場面で使えるスキルを育てよう

なぜ？



(特性理解)

・「おおよそ同じ」という判断が難しいため、一定の場面や人との間ではスキルを獲得していても、場所や人が異なると、同じ方法で対応すること（般化）が難しい。

↓
だから…

- どこでも、誰に対しても使えるスキルになるかを意識して指導する。
- 今の指導から、次の段階、将来的にどのようなスキルを獲得させようとしているかを、しっかり考えておく。

指導例

誰にでも（人物般化）

担任に対してカードを使って要求を出せるようになったら、違う教員に対しても要求を出せるようにしていきます。手立ての一例としては、要求を出す教員とは異なる教員が、背後からカードを持った児童生徒の手を出す動きを促します。要求が出たら、確実に、即時的に答えることで、行動の強化をしていきます。背後からの支援を徐々に減らし、自分でいろいろな人に要求を出せるよう仕組んでいきます。

どんな場面でも（場面般化）

学校で服を畳むことができるようになったら、家庭でも畳むよう促していきましょう。家庭で、学校と同じ籠を準備してもよいですし、学校と同じ手立て（手順書など）で取り組んでもよいでしょう。一つのやり方で般化ができると、その他の場面（デイサービスなど）でも使えるスキルとして可能性が広がります。獲得したスキルを今後どのように活かしていくのか、イメージしておくことが大切です。

(留意点)

- ・「家のトイレでは排せつできるけど、その他の場所のトイレではしない」という児童生徒がいます。学校で排せつができるよう般化を試みますが、なかなかうまくいかないことも多々あります。では、なぜ家のトイレしか使えないのでしょうか。児童生徒にとって、家のトイレ＝排せつをする場所で、それ以外のトイレをトイレと認識できないのかも知れません。または、家のトイレはTOT●で、TOT●だったら使えるけど IN●X は使えないのかもしれない。般化を難しくしている原因を探り、正しい情報を教えていくことで、般化を促していきましょう。

8 「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサイン としてとらえよう

なぜ？



(特性理解)

- ・不安感を軽減するために、安心できることに没頭し、自分を落ち着かせようとする。それが「こだわり」や「常同性」として出現することがある。
- ・変化を嫌うことを「同一性の保持」と言い、ほぼすべての自閉症の人たちにこの特性が認められる。



- 周囲が、個々の児童生徒のこだわりを振り回されないことや、「こだわりをすべてなくす」ことにこだわらないことが大切。
- こだわりを生かすことが、特殊な才能の開花につながる場合もあることを頭に入れておく。

指導例

よいパターンは活かす

その子の生活上、日課や趣味として有用で、周囲が受け入れることができるこだわりについては、学級での係活動に取り入れるなどして、積極的に活かしていきましょう。そうでないものについては、なくさせようとしたり、やめさせようとしたりするの難しいので、社会的に認められるものに切り替えていくようにしましょう。「もう1回だけ」「もう1つだけ」など限度を示していくのもよいでしょう。

最小限にまでコントロールできるような手立てを！

「社会的に認められない」「自分や他人にとって危険」と判断されるこだわりの場合は、適応上、大きな支障となります。そういう場合は、「ある特定の場所でなら、してもよい」と決めて守らせたり、児童生徒が我慢できるようになるための手立てを取り入れたりしましょう。我慢を練習する場合は、「～できたら〇〇していいよ」と、「ご褒美を設定することで、我慢することへの動機づけを高める」、「我慢できたらそこを褒めて達成感を実感させる」ことも有効です。

(留意点)

- ・こだわりを長期に渡って「とにかくやめさせよう」と無理強いするなど、特性を理解せずに不適切な対応を続けると、本人の心理的ストレスが大きくなり、その結果「二次障害」と呼ばれる状態に陥ることがあります。
- ・思春期以降に強いこだわりが持続する場合には、“強迫神経症様”状態と考えた方がよい場合もあります。

9 気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう

なぜ？



(特性理解)

- ・状況や相手に応じて、考えや感情などの切り替えを上手に行うことや効率的に行動することが難しい。さらに、状況や相手に対して、恨みや被害感を抱いてしまうこともある。
- ・他者の気持ちの理解だけでなく、自分の気持ちを理解して言葉で表現する、感情に合った表情をする、といったことが苦手である。



だから・・・

- まずは、嫌な刺激から遠ざけるなど、周囲が環境調整をすることが大切。
- 発達段階に応じて、児童生徒自身が、「どういう場面で困ることが起こり、どうすれば落ち着いていくか」を知る学習が必要。また、「落ち着くための方法」を身に付けていく学習も必要。
- 「こだわってしまって切り替えられない」「切り替える必要を感じていない」など、切り替えられない原因は様々である。また、切り替え方を自然と身に付けることは難しい。そのため、切り替え方を教えていく必要がある。

指導例

息抜き（クールダウン）ができる場所を準備する

「図書室」「教室の〇〇コーナー」「パソコンの部屋」など、本人が落ち着いて過ごせる場所を見つけておき、必要に応じてそこでクールダウンさせましょう。

自分の中にあるいろいろな気持ちに気付けるような活動を取り入れる

「感情を表す言葉と表情のイラストをマッチングさせる」「どのようなときその感情を感じるのか言葉にして一緒に整理する」などの活動を取り入れてみましょう。

ストレスマネジメントを活用する

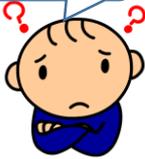
「深呼吸」「体を動かす（スポーツ）」「音楽を聴く」「好きな本を読む」「好きな写真を見る」「大人に話す」「切り替えのキーワードを言ってみる」など、緊張や不安を軽減する手段や本人なりのリラクゼーションの仕方を見つけ、実践させましょう。

(留意点)

- ・気持ちが切り替えられずパニックを起こしてしまった場合、パニックへ対処する必要があります。まずは、周囲に人がいない、危険な物がない場所へ移動させ、子供が自然に落ち着くまで静かに見守ります（このとき、教師自身が子供につられて興奮しないことが大切です）。また、かまひ過ぎるとかえってパニックが長引くことがあるので、その点は注意しましょう。パニックがおさまってきたら、低い落ち着いた声で「〇〇が嫌だったんだね。でも落ち着くことができたね」と子供の気持ちを代弁してあげたり、自分で立ち直ったことを褒めてあげるようにしましょう。

10 その行動が適切であったかを振り返らせよう

なぜ？



(特性理解)

- ・自閉症の児童生徒の「物事のとらえ方・考え方」には、世間一般の基準と比べると、「独特」で「偏り」がある。そのため、いろいろな場面でつまづきやすい傾向にある。
- ・自分自身の行動が適切かどうか、自分では上手に判断ができないことがある。

だから・・・

- 適切な行動が見られた場合は、教師が素早く評価（フィードバック）することや、何について褒めたか具体的に伝えることが大切である。
- すぐに褒めることで、本人が「これでいいんだ」と分かり、安心できるようにする。
- 適切でない行動の後に、叱ったり注意したりする場合は、①落ち着いた態度で、②「〇〇しましょう」など肯定的な言い方でどうすればよいかを、具体的に伝える。

指導例

結果に対してすばやく対応する

「それでいいんだよ」「ちがいます。〇〇です」「～してごらん」など、行動の結果に対して、すばやくフィードバックしましょう。意味を理解している児童生徒の場合は、「拍手をする」「オッケーサインを出す」「ほほえむ」「うなづく（OK）」「首を振る（NG）」といった方法でフィードバックするのもよいでしょう。

評価を「見える化」する

フィードバックするときは、話し言葉だけではなく、「絵に描いて教える」（絵カード、4コマ漫画など）、「文章にして教える」（ソーシャルストーリーなど）、「話を図に整理して考えさせる」など、児童生徒にも教師にも評価が「見える」ようにするとよいでしょう。視覚教材作成の労力を惜しまないようにしましょう。

(留意点)

- ・抽象的にほめられたり、やみくもにほめられたりした児童生徒は、自己評価ばかりが高くなって適切な自己認知ができなくなっていくことがあるため、注意が必要です。



視覚的情報、何にする？



情報を提示するときに使うカード類ですが、どのようなものを使えば一番情報が伝わるかは、児童生徒の実態によって異なります。ツールとしては次のようなものが挙げられますので、児童生徒が一番分かるものを見つけてください。もしかしたら、ここに挙げているものをちょっと工夫した方が分かりやすい場合もあります。

文字カード

かつどう	ばしょ
たいいく	たいいくかん

カード類を準備していなくても、その場で書いて知らせることができます。

絵カード



同じ絵でなければ認識できない場合、緊急時の対応は難しい。

カード類を準備していなくても、その場で絵を書いて知らせることができます。

写真カード①



実物と同じ色合い、環境（背景）などが情報に盛り込まれるため、このような情報があっても認識することができる、もしくは、そのような情報が判断材料になる児童生徒に有効です。

写真カード②



実物の画像（写真）を認識することができるが、他の情報に意識が向いてしまう場合は、背景を切り取り、提示したいものだけの画像にすると効果的です。

具体物

写真などに注意が向きにくい場合は、具体物を使うとよいでしょう。例えば、給食のときにエプロンを渡すなどです。一つの物には一つの意味に限定しましょう。一つの具体物に二つの意味があると、混乱します。調理実習のときは、エプロンではなく、調理実習を示すもの（調理器具や材料）を渡します。

シンボル

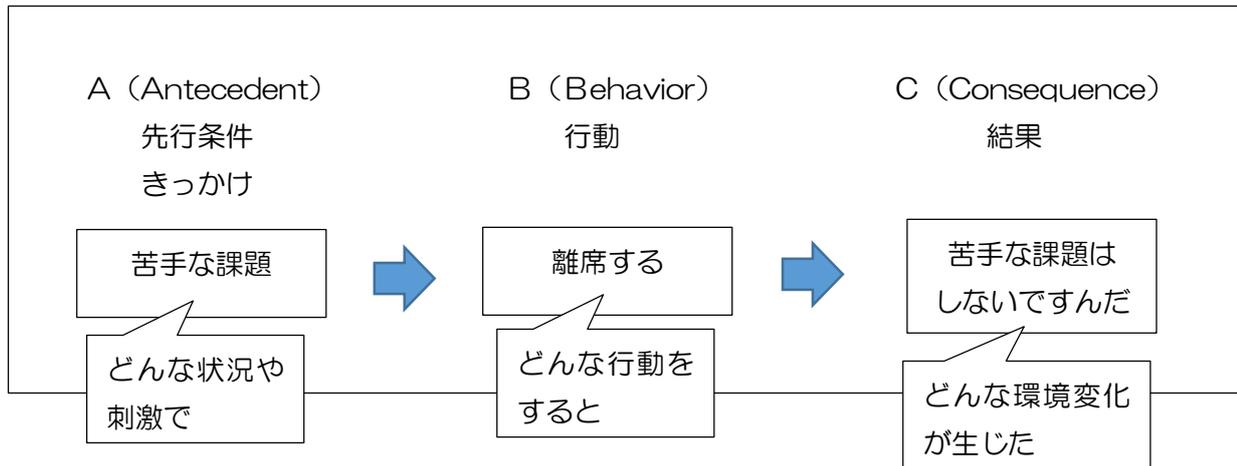
積み木を持たせ、「トランポリンの近くに積み木を置いたら遊ぶことができる」というように、活動と物は直接的な意味のつながりはないけれど、その子によって意味づけをする物です。一つのシンボルには一つの意味に限定しましょう。児童生徒の実態として写真などでは指示が分かりにくく、具体物で提示しにくい活動を示す場合に使うと有効です。

自閉症児の行動理解について

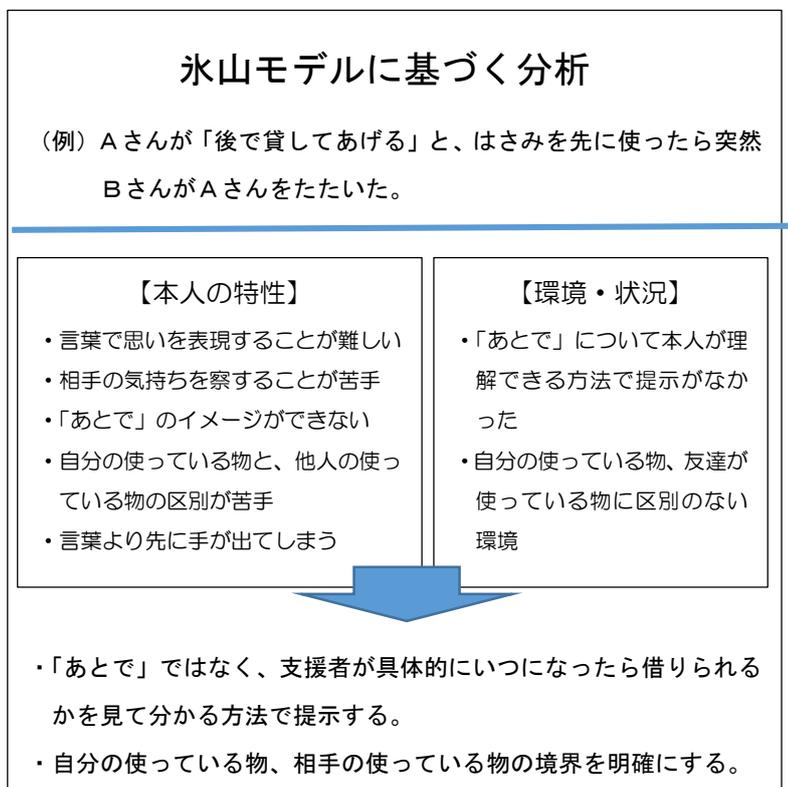
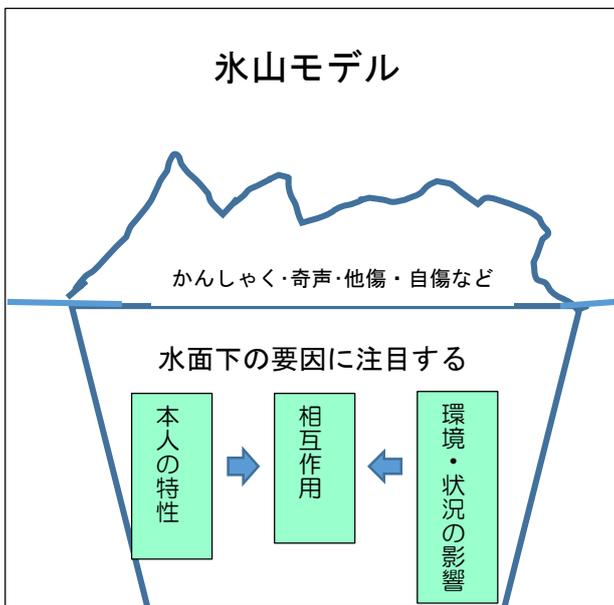
自閉症の児童生徒のかんしゃく、奇声、他傷、自傷、パニック、こだわりなどの行動の理解については、その行動がなぜ起きるのか、行動の背景に何があるのかを探り、分析し、対応することがとても重要です。ここでは、二つの代表的な考え方を紹介します。

一つ目は、機能分析（ABC分析）の考え方です。児童生徒の行動がどのような機能を持っているかということ进行分析する方法です。行動と要因との関係を客観的に分析していくことで、行動面の問題に対する指導・支援の手掛かりが得られます。

（例）離席が多い生徒のABC分析



二つ目は、「冰山モデル」という考え方です。下記に示したように「冰山モデル」とは、課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えます。



自閉症児に対する指導方法等について（ヒント集）

これは、自閉症指導に関するアンケートを実施した際に、本校の先生方が実践されている指導方法等の一部です。スタンダードで紹介している指導方法以外の内容もたくさん含まれています。自閉症の児童生徒に関わる上でとても参考になるものですので、ご活用ください。

関わり方、伝え方の工夫・配慮

- ・感情的でなく、危険なとき以外は大きな声を出さない。
- ・教師が急に背後から声掛けをしたり、体に触ったりしない。
- ・感覚刺激を上手に活用して生徒とのコミュニケーションをとる（例 感覚刺激を入れる→こちら（教師）に関心をもつ→やめる→本人の要求！→刺激を入れる→やめる・・・）
- ・視覚提示を使いながら段階的に指導していくことが必要。その点は周知されているが、その状況が落ち着くと、「もう大丈夫だろう」と判断されて提示が急になくなってしまう。視覚提示や視覚支援は一生必要で、それを使うか、それとも使わないで大丈夫かを、本人たちが選べるようにすることが大切。
- ・約束やルール（着替えの整理、食事のマナーなど）を示すときは、文字やイラストで視覚化し、できたときに即時的に評価できるよう花○カードを貼れるような教材を準備している。
- ・ダンスが苦手な生徒に、好きな芸能人の写真などをトークンにして、活動を促す。
- ・数学などで百ます計算をするとき、タブレットでタイマーを表示させて取り組ませる。
- ・個々で情報処理の仕方、処理できる量など細かい所まで異なるので、その状態を細かく分析する。それに対応した情報の提示の仕方を工夫する（見せるのであればどのくらい詳しくとか、言葉で伝えられるならどんな言葉で、内容量はどのくらい？とか）。
- ・本人の好む遊びや活動に入っていく、同じことを一緒にしたり共感的に声掛けをしたりする。自己肯定感を高めたり、他者の意識や人と関わる心地よさを理解させたりすることが大切と感じる。

行動に対する対応の仕方

- ・パニックになったときは、情動調整の力が大切になると思い、今の自分の気持ちを表現できるようにしている。表情カードから気持ちを選択させていくことが有効なときがある。また、パニックになったときは、様子を動画で撮影してすぐに見せると、自分の姿を客観視できてクールダウンできることがある。
- ・行動などの求めるレベルが高すぎず、低すぎず、常にちょうど良い挑戦になっているかを意識することが大切である。

- ・その子のレベルに応じて「して良いこと」と「してはいけないこと」のラインをしっかりと見定め、子供への伝達もぶれないようにすることが大切である。
- ・適切な行動には直後に正の刺激（褒めるなど）、不適切な行動には負の刺激（叱るなど）、手続きをしっかりと意識し、アプローチすること。
- ・こだわりが強いときは、トークンや日程の確認をする。好ましい行動を教師がしてみせる。チームで行動する（人や場面が変わることで受け入れやすくなることもある）。
- ・子供がパニックになったり興奮したりしているときこそ、冷静に落ち着いた言葉掛けや対応をとるようになっている。
- ・提示された情報をしっかりと理解できているか確認を行いながら指導を行ってきた。また、納得いかず、気持ちをコントロールできなくなって思っていることを口に出すなど、社会的に不適切なことを言動に表した場合は一対一の場を設け、行動の振り返りを行わせるようにした（対人関係、気持ちのコントロール）。
- ・苦手な活動のときは、細かくスケジュールなどを知らせておき、心の準備をさせる。急な予定変更、トラブルが起こったときにどのように動いて、誰の指示を聞けばよいかを事前に教えておく。
- ・気分転換の方法をいくつか一緒に考えておく。ストレスがたまったときにマイナスの行動に出ないように。
- ・本人の中に確立しているルーティンをできる限り尊重しつつ、普段と違う状況になってもなるべく戸惑うことがないように、少しずつ負荷をかけていく（他の習慣に慣れさせる）。
- ・集団参加や時間割変更が多く、疲れて参加できないときは、本人の思いをたずね、確認し、選択させる。
- ・問題行動については出てから対処するのではなく、出ないようにする対応を考えていく。ポジティブな視点をもつ。
- ・状況の理解や指示の理解が曖昧にならないようにしている。基本的には、理解できていないから従えないで困っていると捉えるようにしている。規制のない状況では行動しにくい子が多いので、家庭生活、学校生活ともに、「規制の中での選択の自由」をどれだけ分かりやすく提供できるかがポイントだと考えている（〇時までは自由時間、自分であることを選んで良いことを理解させ、選択肢をできるだけたくさん示しておくなど）。

連 携

- ・家庭（保護者）との情報共有（家庭での状況をしっかりと把握し、保護者の困り感をしっかりと受け止める、寄り添う、共感する。）
- ・周囲の教員との指導の状況について情報を共有し、指導の意図を共通理解する。

参考文献

- 石狩管内発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業事務局 高等学校における発達障害のある生徒の支援 2008 <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ikk/gimuhan/sne/sirryo20.pdf>
- 上野一彦・月森久江 ケース別発達障害のある子へのサポート事例集小学校編 2010 ナツメ社
- 太田昌孝・永井洋子 認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の Stage 別発達課題 1992 日本文化科学社
- 尾崎洋一郎・草野和子 高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち 2005 同成社
- 杉山登志郎・辻井正次 発達障害の子どもができることを伸ばす！思春期編 2013 日東書院
- 田中康雄（監修）・岡田智（編著） 暗黙のルールが身につくソーシャルスキルトレーニング（SST）カード教材集 2016 ナツメ社
- 月森久江 教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編 2012 図書文化ノースカロライナ大学医学部精神科 TEACCH 部（編）・服巻繁（訳）見える形でわかりやすく TEACCH における視覚的構造化と自立課題 2004 エンパワメント研究所
- 原仁 最新子どもの発達障害辞典 2014 合同出版株式会社
- 横浜市教育委員会 認めよう、見つめよう、育もう～自閉症の理解と適切な指導・支援のために～ 2012 www.city.yokohama.lg.jp/.../24autismeducationpamph.pdf